

リサーチウォーキング東山巡り

平成29年2月24日（金）午前10時に京阪・JR東福寺駅前に集合し、駅近くの本町通りに面した瀧尾神社へ、小さな神社ですが京都市の文化財に指定されていて、社殿の彫刻には圧倒されます。今やパワースポットとして有名だそうです。

続いて、今熊野商店街のシャッター地域を通り新熊野（いまくまの）神社に、平安時代末期後白河法皇によって創建された神社で、正面階段を上ると左手に創建の折に紀州熊野より運ばれた「上皇手植えの樟」と伝えられる大樟があり、荘厳さが感じられました。本殿の左右には、熊野の神木＜榊（なぎ）＞があり、古来は「榊の宮」とも呼ばれていたそうです。お参りの際に鳴らす大鈴が変わっていて、巫女さんが神楽舞を舞うときに手にもって鳴らす神楽鈴みたいな鈴がつるされていました。（能楽発祥の地と呼ばれる所以でしょうか。）



新熊野神社境内の様子

神社を後にして、住宅街を通りながら「この道は昔、川で東山から鴨川に流れていた」などと説明を聞きながら清水焼窯元「陶葎」さんへ、立派な瓦壁が見えてきて門をくぐり工房に入れていただくと、多くの職人さんがそれぞれの持ち場で作業されていました。私たちが絵づけするのは、素焼きされたお皿かお湯呑みでどちらかが選べました。上手く絵付けができるか心配していましたが、まず、気に入った絵を選び鉛筆で下書きをして、筆を使って器に下書きの縁取りをして、後、色は職人さんが仕上げてくださるとのこと。一安心！絵心がないと陶器絵付けを辞退していた評価事務所の尾浦さんも参加して下さり、作品は4月の京都地区行政相談委員協議会総会で手渡されることになりました。



陶葺（とうあん）で絵付け体験

にぎやかに作業は終わり平住さんのお寺、東福寺塔頭正覺庵におじゃまし、お昼ご飯に矢尾治の精進弁当、その上に大きなお鍋に平住さんお手製の大根の煮物を作ってくださっていて、熱々の大根やお揚げを美味しくいただき、身体も心も暖かくなって皆さんと楽しい時間を過ごしました。



東福寺塔頭正覺庵



挨拶される平住委員



参加者は委員9名 評価事務所尾浦さんとで10名でした。
お天気に恵まれたと言うものの2月の寒い中、参加していただきありがとうございました。

報告者 本多登代子